

D. 物 質 名 詞

- § 36 おもな物質名詞
 § 37 物質名詞の用法
 § 38 物質名詞の □ 化
 § 39 物質名詞用の単位名詞

E. 抽 象 名 詞

- § 40 抽象名詞の作り方
 § 41 形容詞 → 抽象名詞
 § 42 動詞 → 抽象名詞
 § 43 普通名詞 → 抽象名詞
 § 44 抽象名詞の用法
 § 45 抽象名詞の □ 化
 § 46 < 慣用複数 > の抽象名詞
 Exercise 3 37

2. 代 名 詞

- § 47 代名詞とは

A. 人 称 代 名 詞 一 般

- § 48 人称代名詞一覧表
 § 49 一人称・二人称・三人称
 § 50 主格・所有格・目的格
 § 51 所有代名詞
 § 52 we, you, they の一般用法

B. it の特別用法

- § 53 it 対 one
 § 54 物質名詞と it
 § 55 it = < a + 名詞 > の場合
 § 56 形式主語・形式目的語
 § 57 問題点の it
 § 58 強調構文 It is . . . that . . .

- § 59 天候・時刻・距離などの it

C. 再 帰 代 名 詞

- § 60 再帰代名詞の形
 § 61 再帰的用法
 § 62 強調的用法
 § 63 my own shoes の形
 Exercise 4 48

D. 指 示 代 名 詞 ・ 不 定 代 名 詞

- § 64 代名詞系列語
 § 65 this, these; that, those
 § 66 here
 § 67 there
 § 68 now
 § 69 one

- § 70 other, another

- § 71 some 対 no

- § 72 any の系列

- § 73 each

- § 74 every

- § 75 any 対 every

- § 76 either, neither

- § 77 all

- § 78 all を含む慣用語句

- § 79 both

Exercise 5 70

E. 疑 問 詞

- § 80 疑問代名詞
 § 81 who
 § 82 what
 § 83 < X 疑問 > と < Yes-No 疑問 >

- § 84 which

- § 85 where, when

- § 86 how

- § 87 why

F. 関 係 詞

- § 88 関係代名詞・関係副詞
 § 89 結合の実態・先行詞
 § 90 制限用法と非制限用法
 § 91 who, which
 § 92 that
 § 93 関係代名詞の省略
 § 94 what
 § 95 関係代名詞 対 疑問代名詞
 Exercise 6 85

3. 形 容 詞

A. 総 論

- § 96 形容詞

B. 数 量 形 容 詞

- § 97 many, much, few, little
 § 98.0 数詞
 § 98.1 基数詞
 § 98.2 位どり
 § 98.3 年号などの読み方
 § 98.4 序数詞

C. 性 質 形 容 詞

- § 99 性質形容詞を作る接尾辞
 § 100 形容詞と名詞
 § 101 計量用法の性質形容詞
 § 102 比較の 3 級

- § 103 -er, -est による比較級・最上級

- § 104 more, most によるもの

- § 105 不規則な比較級・最上級

- § 106.1 as . . . as 型比較

- § 106.2 not so . . . as と not as . . . as

- § 107 比較の種々相

Exercise 7 104

4. 冠 詞

- § 108 冠詞とは

- § 109 不定冠詞の用法

- § 110 不定冠詞の特別用法

- § 111 定冠詞

- § 112 定冠詞の用法

- § 113.0 定冠詞の特別用法

- § 113.1 時間帯を示す句

- § 113.2 場所を示す句

- § 113.3 基準を示す句

- § 113.4 ことわざの中の語句

- § 114.0 冠詞の省略

- § 114.1 < go to school > の型

- § 114.2 < man and wife > の型

- § 114.3 < make haste > < take care of > の型

- § 115 冠詞のかかり方

Exercise 8 115

5. 動 詞

A. 動 詞 の 分 類

- § 116 動詞とは

- § 117 動詞の分類

- § 118 動詞の < 形 > の説明

代名詞系列語一覽表

	代名詞	限定詞 [形容詞的用法]	副所		備考
			場	時	
指示	{this these that those}	{this book these books that book those books}	here there	now then	thus (このようにして)
	one (人) one, ones (もの) another other, others some something somebody, someone any anything anybody, anyone — nothing nobody, [no one →] none each — all	— — another book other book(s) some book(s) — any book(s) — no book(s) no one — each book every book all books	elsewhere somewhere anywhere nowhere everywhere	once (かつて) sometimes (時々) [sometime (いつか)] [ever] [never] always	このほか2個のものについて either neither both この3語は代名詞および限定詞として用いられる。 everythingなどは §74 参照。
疑問	who what which	— what book which book	where	when	how, why (方法, 理由)
	who which that what	— which book — [what little money]	where	when	how, why (方法, 理由)

I like the style of Hemingway better than **that of** Steinbeck.

(私はヘミングウェイの文体のほうが、スタインベックの文体よりも好きだ)

those who... という形は「...であるような人々」を一般的にさすために用いられる。ただし、この形は文語調であって、日常会話の調子ではない。

Heaven helps **those who** help themselves.

(天はみずから助けるものを助ける)

§ 66 here

here は「ここに」「ここで」「ここへ」の意味に用いられる。

They have a branch office **here**.

(その会社はここに支店を持っている)

What are you doing **here**? (ここで何をしているのですか)

CHANGE **HERE** FOR ITAMI. (伊丹行きは[当駅で]乗りかえ)

John will come **here** very soon—oh, **here** he comes!

(ジョンはじきにここへくるでしょう——ああ、やってきた!)

相手に「これをあげる」というとき、英語では **Here's...** という言い方をすることが多い。

Here's my card. [=This is my card.]

(これが私の名刺です) [相手に名刺を渡しながらいふ]

Here's the money. (この金をおわたします)

§ 67 there

there には (1) <場所の **there**> と (2) <導入の **there**> との2種類がある。

(1) <場所の **there**> は [ðeə] と発音し、**here** に対応して「そこ」の意味に用いられる。

He often goes **there** on business. (彼は商用でしばしばそこへ行く)

What were you doing **there**?

(あなたは、そこ——あそこ——で何をしていたのですか)

(2) <導入の **there**> は、多く、**There is...** (...がある) の形でくものの存在をあらわすのに用いられる。この **there** は

§70 other, another

another というのは〈an+other〉が統合された形であるから、基本は **other** である。そして **other** が「ほかの」の意味であり、不定冠詞、定冠詞の意味がすでに述べたとおり [→ §25, §26, §29] であることを知れば、**another, the other(s)** の意味

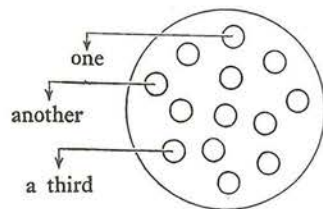


図 1

もわかるはずである。また、これらに対応する〈限定詞〉としての意味も容易にわかる。この点を図解してみよう。図1のようなリングの集合があるとき、そのひとつを任意にとって、これを **one** とすれば、つぎにく他の任意のひとつをさして **another** (もうひとつ別の) という。そのつぎにくもうひとつ任意のをとれば、それは **a third** といい、そのつぎは **a fourth** である。[はじめから〈序列〉のついたものを順次とるときは、*the first, the second, the third, the fourth...* となる。] つぎに A, B 2個のリングがあって、そのひとつ、たとえば A をさきに **one** といってとれば、残りの B は限定されたものであるから [ほかにリングはないのだから]、この B は **the other** (残りのひとつ、もう一方) [図2] となる。同様にして、〈残り全部が複数で与えられている場合〉は **the others** という。たとえば、図3のように6個のリングがあるとき、A を **one** とすれば、〈B,

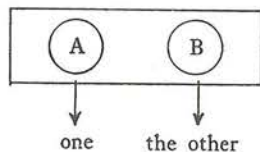


図 2

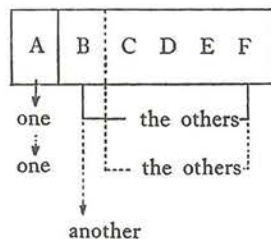


図 3

C, D, E, F〉全部は **the others** である。

また、A を **one** とし、つぎに B を **another** としたとき、その段階で、〈C, D, E, F〉をまとめてさすときにやはり〈C, D, E, F〉が **the others** となる。例文によって理解しよう。

This dry-cell is not good; give me **another**.

(この乾電池はダメだ、もうひとつ別のをください)

Let's try **another** shop. (もう一軒、べつの店をあたってみよう)

We have two dogs. **One** is black, and **the other** is white.

(うちに犬が2ひきいる。1匹きは黒く、もう1匹きのほうは白い)

The rooms No.1 and No. 6 are vacant. **The other rooms** are occupied.

(1号室と6号室とはあいています。ほかのへやはふさがっています)

この最後の例の **the other rooms** は上記 **the others** に対応する限定詞的 [other を限定詞に用いた] 用法であるから〈残りのへや全部〉をさす。

つぎに〈× **others**〉の形について説明しよう。これには

- (1) 不特定な部分集合を意味するときと、
- (2) 「他人、世間」を意味するときとがある。

(1) の場合というのは、たとえば右図のように生徒の集合があり、そのうち A のグループのものが放課後テニスをやり、B のグループのものは野球をやり、C のグループのものはサッカーをやるとする。そうして、A, B, C 以外にも生徒はいるものとする。このとき日本語では、「テニスを

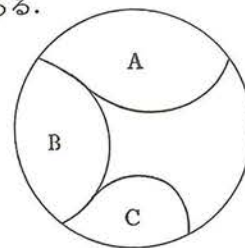


図 4

するものもあり、野球をするものもあり、サッカーをするものもある」というようになるであろう。このことを英語でいうと、この不特定な部分集合を順次 **some, others, others...** というふうにあらわし、

ぎり every のつぎに複数名詞も来うる。
 every **five minutes** (5分ごとに)
 every **three hours** (3時間ごとに)

§ 75 any 対 every

any は「どれでも任意のひとつ」の意味、**every** は「これも、あれも」とひとつずつ数えていって「ことごとく」と総括する意味である。

- ① **Every** child knows that.
- ② **Any** child can tell you that.

①は、「この子も知っている」「あの子も知っている」とひとりずつ数えつくして「どの子もみんなそれを知っている、それ知らない子はない」という意味である。しかし②は「どの子でもかまわない、任意の子をとり出してたずねてごらん、それに答えることができる」という意味である。換言すれば **every** はく同時にあれもこれもの意味であり、**any** はく1度にひとつの意味である。したがって He knows **everything**. (彼は何でも知っている)とはいえるが、He can teach **everything**. という言い方は適当でない。He can teach **anything**. (彼は何でも教えられる)といわねばならない。すなわちく状態の動詞は **every** を伴い、く動作動詞は **any** を伴うのである [く状態動詞く動作動詞→§ 192]。しかし過去のことになると、たとえ動作でも、蓄積された経験として総括できるから、一括して **every** を用い、I have tried **every** means. (私はあらゆる手段を試みた)ということができる [means (手段)は単複同形。ここは単数形]。

I will do **anything** in my power. I have done **everything** in my power. (私にできることは何なりとしよう) (できるだけことはみなやりました)

That dog will eat **anything**. (その犬は何でも食べる) [好き、きらいがない] That dog has eaten **everything**. (その犬はすっかり食べてしまった) [1度の食事について]

§ 76 either, neither

とくに2つのものについて「任意のどちらかひとつ」を **either** といい、「どちらも...でない」を **neither** という。すなわち **either** は **any** に対応し、**neither** は **no** に対応している。ただし、**neither** は単独で代名詞として用いることもできるから、この点は **no** とはちがっている。

either には **any** の3用法に対応する3つの用法がある。**neither** は2つのものを両方否定する。

2個の場合

(1) 肯定文

You may choose **either** of the two languages. (2国語のうちどちらを選んでよい)

(2) 疑問文

Do you know **either** of his parents? (彼の両親のうちどちらかを知っていますか)

(3) 否定文

I do **not** know **either** of them.
 I know **neither** of them.
 (どちらも知らない)

3個以上の場合

You may choose **any** of the three languages. (3国語のうちどれを選んでよい)

Do you know **any** of his brothers? (あの人の兄弟のうちどれかを知っていますか)

I do **not** know **any** of them.
 I know **none** of them.
 (どれも知らない)

N.B. 1. くeither A or Bくについては § 159 参照。

N.B. 2. **either** と **both** との関係については § 79 **N.B. 2** 参照。

N.B. 3. くneither A nor Bくについては § 159 参照。

また、**neither** にはつぎの副詞の用法がある。すなわち、**neither** を含む文は、先行の否定文に同調することを示す。

- Cf. { ① Mary is **not** dead.—**Neither** is Elizabeth (dead).
 (メアリは死んでいない)(エリザベスも死んでいない)
 ② Mary is dead.—But Elizabeth is not dead, **too**.
 (メアリは死んだ)(しかし、エリザベスも死んだ)
 というのではない)

②の文はく肯定文に同調する文くを先に考え、そういうことはない、というのであるから、くくの中に対応する部分に **too** (...もまた)

Exercise 15

(1) 例にならって、つぎの各文中の斜体字の語を中核として、〈the＋名詞＋形容詞句〉という句を主語とする文に書きかえよ。

《例》 {There is a *cat* under the table. It has a long tail.
 → The cat under the table has a long tail.
 {That *girl* has blue eyes. She is my little sister.
 → The girl with blue eyes is my little sister.

1. There is a *map* on the wall. It is a map of Europe.
2. There are some *apples* on that tree. They are still green.
3. There is a *clock* on the desk. It is out of order.
4. There is a *shop* opposite the school. It is a book-store.
5. That *woman* has her feet on a chair. She is Mrs. Richard.
6. There are some *shirts* on the line. They are not mine.

(2) つぎの英文の書き出しに接続するもっとも適当なものを下のアからコまでの中から選び、その符号を答えよ。

1. He had a lot of work to do, ().
2. If it is fine tomorrow, ().
3. You must work as hard as possible, ().
4. She sent him a book written in French, ().
5. Where there is a will, ().
 ア. which he put into French
 イ. which, he found, was full of pictures
 ウ. there is a way
 エ. and you will fail in the examination
 オ. that he had a very good time
 カ. we will go on a picnic with our sisters
 キ. so he forgot to post the letter
 ク. there is a flower in the vase
 ケ. or you will fail in the examination
 コ. we will not have an open-air concert

(3) 左端の語(または語群)を文頭において、意味のとおる英文になるように語または語群をならべ、例にならって記号で答えよ。

《例》 There is

ア (way from) イ (a post office)
 ウ (live) エ (where we)
 オ (only a little)

〈正解〉は、イオアエウ。

1. Customers

ア (until) イ (their little chats)
 ウ (are often kept) エ (shop-girls finish)
 オ (waiting in stores)

2. Our mania for

ア (was) イ (than our mania)
 ウ (for traveling) エ (hard work)
 オ (even stronger)

3. But I

ア (almost as diligent) イ (am delighted)
 ウ (as any other nation) エ (that we are growing)
 オ (to report)

4. Strikes,

ア (are) イ (frequent)
 エ (more and more) ウ (too,)
 オ (becoming)

(4) 本文の例にならってつぎの各文を分析せよ。

1. The man who is standing at the door is a teacher of this school.
2. This is the yacht which he bought ten years ago.
3. I know that he studied English in the U.S.A.
4. While he was having a rest in the bedroom, I had to do my homework in my room.
5. I think it natural that he called you a hero.

能 動 態

They export a great deal of silk every year. (毎年多量の絹を輸出する)

People say that he is a salesman. (世間では彼はセールズマンだといっている)

You must not speak Japanese in class. (教室では日本語を使ってはいけません)

We named the dog "Pluto". (犬をブルートーと名づけた)

Someone blew out the candle. (だれかがろうそくを吹き消した)

N.B. 1. この blow out は〈動詞+副詞コンビ〉[→ §155.2].

I sent for the doctor. (医者を呼びにやった) [使者を出した]

N.B. 2. send for を受動態に用いることについては § 230 をも比較せよ。

〈動作主〉に重きをおかない場合には受動態を使うことが多い。

① Columbus **discovered** America.

(コロンブスがアメリカを発見した) [能動態]

② America **was discovered** in the year 1492.

(アメリカは 1492 年に発見された) [受動態]

この 2 例中、② は年代をいうのが主意であり、発見者に重きをおかないのである。

§ 228 〈S+V+O+C〉から作った受動態

〈S+V+O+C〉型の文のうち「...を...とする」という使役動詞を含む文を受動態にするとつぎのようになる。

They elected him chairman. *He was elected chairman.* (彼らは彼を議長に選んだ) (彼は議長に選ばれた)

He made her happy. (彼は彼女を幸福にした) *She was made happy.* (彼女は幸福にされた)

受 動 態

A great deal of silk **is exported** every year. (毎年多量の絹が輸出される)

It is said that he is a salesman. (彼はセールズマンだといわれている)

Japanese must not **be spoken** in class. (教室で日本語が使われてはならない)

The dog **was named** "Pluto". (犬はブルートーと名づけられた)

The candle **was blown out.** (ろうそくが吹き消された)

§ 229 〈S+V+O₂+O₁〉から作った受動態

授与動詞の受動態は、① もとの文で直接目的語であったものを主語にするのと、② 間接目的語であったものを主語にするのと 2 種類できる。

He **gave** me a watch. (彼は私に時計をくれた)

{ ① A watch **was given** me (by him). } (私は時計をもらった)
{ ② I **was given** a watch (by him). }

They **offered** him a position. (彼に就職の口がかかった)

{ ① A position **was offered** him. } (彼は就職の口をかけられた)
{ ② He **was offered** a position. }

このように授与動詞を受動態に変えるとき、そのまま取り残される目的語 [上の斜体字の語] を保留目的語 (Retained object) という。

動詞によっては、上の ①、② のうち一方の形式しか認められないものがある。He **wrote** me a letter. (彼は私に手紙を書いた) では、① A letter **was written** to me (by him). はよいが、② I **was written** a letter (by him). は不相当であり、また、They **spared** me the trouble. (彼らは私からその労を免除してくれた) では、② I **was spared** the trouble. はよいが、① The trouble **was spared** me. は不可能である。

§ 230 〈He was run over.〉型の受動態

自動詞にはその性質上、受動態はない。しかし自動詞が前置詞と結合して〈複合他動詞〉となった場合はこれを受動態にすることができる [→ § 277].

You cannot **rely upon** him. (あの人をあてにすることはできぬ) He cannot **be relied upon.** (あの人をあてにならない)

The automobile **ran over** a girl. (自動車少女をひいた) A girl **was run over** by the automobile. (少女が自動車にひかれた)

You must **look after** the child. (君は子供の世わをしてやらなくてはならない) The child must **be looked after.** (子供は世わされなくてはならない)